

令和6年度風早北部地区災害対策本部員会議 報告書

作成日：令和6年8月6日（火）

報告者：沼南近隣センター 竹之内

1 日時

令和6年8月5日（月）午後1時30分から午後4時50分まで

2 出席者

- (1) 風早北部地区災害対策本部員 本部長以下25名（5名欠席）
- (2) 危機管理部防災安全課職員 2名（片上主査及び花田主任）
- (3) 風早北部地域ふるさと協議会 2名（牧野会長及び古山防犯防災部長）

3 会議録

(1) 柏市の防災体制について【防災安全課 花田主任】

会議資料 01-1～4 及び 03-1～8 に基づき説明。要点は以下のとおり。

ア 地区災害対策本部体制の変更について

・各避難所ごとに開設担当部局・人数が異なっていたが、全避難所を地区災害対策本部が開設する体制へ変更し、人数も1～2名から3名に増員した。

・本部体制は、本部長と本部長補佐を除いて5担当あった体制を、本部運営員と避難所運営員の2担当へ変更。担当ごとの業務量の差異を是正した。

イ 柏市の防災

・備蓄倉庫は、市全体の物資を保管するもの（防災備蓄倉庫）と、各避難所用の物資を保管するもの（災害用備蓄倉庫）とがある。

ウ 避難所開設・運営マニュアルと避難所開設ガイド

・避難所ガイドは市職員向けに全避難所分を作成。各避難所で何がどこにあるのか分からず、発災時に円滑な対応ができないという問題を解消。避難所開設・運営マニュアルから開設に必要な事項を抜粋するとともに、施設ごとの開錠方法や倉庫の位置を記載したので、発災時はこのガイドをもとに避難所開設を行うことができると考えている。

・避難所によって、鍵の所在地は違うのでガイドを参考にしてほしい。

・避難所開設・運営マニュアルについては今年度の変更は特段無く、ガイドで不明な点があった際に参照してほしい。

・避難所の開設や運営は、職員だけでなく避難者がいた場合は協力をお願いする。避難者が主体的に避難所運営ができるようにサポートすることが大切。

・本日、簡単な避難所開設手順の確認を行うが、避難所開設の実践的な訓練の実施は防災安全課として実施すべき事項として認識しているため、今後検討していく。

(2) 地区災害対策本部員の役割について【竹之内】

会議資料 02-1 に基づき説明。要点は以下のとおり。

- ・柏市で震度 5 強以上を観測した際に地区災害対策本部を設置する。(指示によらず自動参集)
- ・震度 5 弱で半数(任期内初回の 5 弱は P.13 名簿の A 班にて、2 回目は B 班にて)が参集、5 強で全員が参集となるが、それぞれ参集場所が異なることに注意。
- ・その他、風水害時等で地区本部設置や避難所開設となった場合には、必要に応じて参集指示する。
- ・役割「地区内の被害情報の収集」は、各員が参集途上で被害状況を確認するほか、地域住民から各避難所へ寄せられる情報を収集する。ある意味、受動的な情報収集となる(従前のような積極的被害調査ではない)。
- ・役割「K-net 活動」は地区本部が対応。K-net とは避難行動に不安のある方を隣近所・町会等が安否確認・避難支援する共助の仕組み。町会等は、「電話が繋がらない場合、遠方であっても足を運んで」などあらゆる手段を講じての報告が求められている。
- ・当地区はふる協が整備するトランシーバーがある(@沼南 KC 事務室)。過去の震災では、電話での通信が制限されるケースが多く、交通網のマヒも考えられるため、無線活用を想定しておくことが肝要。
- ・P.11 のローテーション方法は基本的には現場判断とする。避難者の状況も各避難所によるので。
- ・「地区災害対策本部員マニュアル」「避難所開設ガイド」「避難所開設・運営マニュアル」といった避難所開設に最低限必要であろうマニュアル類は、LoGo チャットのグループトーク内のノートに保存している。参集時にお役立ていただきたい。

(3) 柏市災害情報システムの操作【竹之内】

会議資料 01-5 参照。沼南近隣センターに配備された IP 無線 9 台を用いて、「参集報告」「避難所開設情報」「被害報告」への入力操作をシミュレートした。

(4) 避難所開設訓練

沼南近隣センターの災害用備蓄倉庫位置等を確認し、多目的ホールにて受付設置及び避難所開設の手順を確認した。要点は以下のとおり。

- ・沼南近隣センターの災害用備蓄は分散保管されている。
- ・「初動グッズ」「衛生グッズ」は倉庫 1，パーティション及び簡易ベッドは多目的ホール，受付用の机などは館内のものを使用。(=最低限の開設であれば施設内で完結する設定)
- ・受付は、健常者と体調不良者の動線を分けるようにする。
- ・体調不良者と健常者の区別をすることが重要。

- ・市職員が避難所運営をすべて行おうとするとうまくいかない。避難者たちでルール決めや運営を担っていくのが原則。
- ・避難所は、避難者たちの住家であるイメージするとよい。自分の家は自分で掃除する。避難所も同じこと。
- ・パーティションと簡易ベッドは、個数が決まっているので優先順位をつけて使用してほしい。
- ・使用用途は具体的には定めておらず、別に有効な使い方があれば避難所ごとに判断し、使用して構わない。



(5) 風早北部地域ふるさと協議会の防災活動について【古山防犯防災部長】
会議資料 04-1 に基づき説明。要点は以下のとおり。

- ・市の想定する避難所の収容可能人数を大幅に超過する避難者があるものと試算している。避難所のキャパシティは課題。
- ・この地区には総合病院（＝災害時の応急救命施設）がなく、発災後、最悪のケースでは、医師・看護師がこの地域からいなくなる。大怪我をして命を落とされる住民リスクが高まる。柏市がようやく臨時応急施設として沼南体育館を指定したが、機能する目処や実現性は不透明である。
- ・地域内各組織や住民の大規模災害対応の防災意識に温度差があり、それが立ち遅れている組織や住民に大きな犠牲が発生、かつ各避難所が大混乱を引き起こすおそれが高い。←訓練してない地域が大惨事となることは、3.11 の津波被害が証明しているが、住民に当事者意識が必ずしも高くないのが事実。これは風早北部地域のみならず、柏市全体の課題。
- ・今年度、ふる協では「シェイクアウト訓練の推奨」（←受傷による避難行動の難化や医療機関への負荷といったリスク軽減につなげる）、地域住民が避難先と決める避難所（学校等）の「開設手順書の整備」及び「避難訓練の実施」（←スムーズな避難所開設につなげる）を目標としている。
- ・各避難所での避難訓練や、無線通報訓練の実施に際しては、ぜひ役割に応じた地区災害対策本部員の参加をお願いしたいと思う。

(6) 大津ヶ丘中学校（防災倉庫、体育館及び武道場等）視察

学校避難所のイメージを具体化するため、モデルとして大津ヶ丘中学校を視察した。災害用備蓄倉庫から避難所（出入口・搬入口）までの距離感や、運搬する物資の重量・数量などを体感した。

(7) その他（質疑等）

特になし

※必要があれば，庁内メール（送付先：防災安全課兩名及び竹之内）にて個人的に質問いただくよう案内した。

以上